

# 幼 児 の 教 育

昭 和 十 四 年 三 月

## わかれの日に

子ども達が幼稚園を去つてゆく保育終了の日は、入園の時から楽しみ待たされた日である。この日こそ、子ども達の幸福の日、喜びの日である。それを、なぜ、そつと拭ふ先生の涙か。祝ひ、喜び、あすの入學を祝福しながら、それに、先生方は悲しいさうな。なんの悲みか。

教育をしてゐる。保育をしてゐると思つたのは、目的を見つめての言葉に過ぎなかつた。その子のためにと思つてゐたのも、任務を顧みての言葉に過ぎなかつた。若し、それだけのことだつたら、今日、先生方の目に涙は光らない。毎日、ほんさうに、子ども達と會つてゐたのだ。自分の方で多く受けてゐたのだ。それだから、わかれが悲しいのだ。さういふことが、今日にこそ思ひつかる。

思へば、毎日は、そんなにも、先生に嬉しく、喜ばしく、楽しい日であつたのである。

(倉橋惣三)